

Title	聖学院みどり幼稚園における子育て支援「わかば」の二年間の活動報告 : 聖学院大学児童学科子育て支援センター「わかば」の基盤としての省察
Author(s)	長山, 篤子 グラハム, 里美 山口, 結香 村山, 順吉
Citation	聖学院大学論叢,21(3) : 105-121
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=897
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

聖学院みどり幼稚園における子育て支援「わかば」の 二年間の活動報告

— 聖学院大学児童学科子育て支援センター「わかば」の基盤としての省察 —

長山篤子*¹⁾・グラハム里美*²⁾・山口結香*³⁾・村山順吉*¹⁾

Report Concerning Two Years of Activity in the Child Rearing and Family Support
Group (“Wakaba”) which Was Located in the Seigakuin Midori Kindergarten

Reflections on the Foundation of “Wakaba”:
Seigakuin University’s Child Rearing Family Support Center

Atsuko NAGAYAMA, Satomi GURAHAMU, Yuka YAMAGUTI, Jyunkiti MURAYAMA

The purpose of this collection of thesis papers is to construct and verify the future design and activities of the Seigakuin University Child and Family Support Center. The desire is to reflect on two years of pre-kindergarten classes (“Wakaba”), their implementation and activities by providing resource materials that will serve as a foundation for the future. In sum, the collection offers a report of a survey conducted over two years with the Wakaba guardians, providing analysis of how the university should relate and contribute to the ‘nurturing of small children’ and the ‘nurturing of their guardians who raise them’ in the campus vicinity.

Key words: pre-kindergarten “Wakaba”, child-raising, guardian guidance, neighborhood contributions, child and family support center

— はじめに —

本資料は、地域に在住する2歳から3歳の未就園児とその保護者を対象に聖学院みどり幼稚園が取り組んだ「母と子が心豊かに過ごす時と場を提供する地域子育て支援活動」の趣旨ねらい・内容・広報活動等の記録を以下の(1)～(7)の項目により構成し資料と省察を加え提供するものである。資料提供にあたり、出来る限り配布・記録・考察した資料を記載したいが、紙面の都合上、執筆者合意に基づき選定した資料を記載することとした。

(1) 2006年度子育て支援のための未就園児クラス「わかば」の開始時の趣旨及び地域への呼びか

執筆者の所属：*1) 人間福祉学部児童学科

論文受理日2008年10月10日

*2) 児童学科子育て支援センター

*3) 現中央区立月島幼稚園 前聖学院大学「わかばクラス」担当

聖学院みどり幼稚園における子育て支援「わかば」の二年間の活動報告

けと2007年度募集要項パンフレット

- (2) 活動のねらいと内容の紹介（各期のねらいと内容・1日の活動視点と内容）
- (3) 環境整備と教材
- (4) 利用場所・参加状況
- (5) 保育者とボランティア
- (6) 保護者への働きかけ 相談・講演等
- (7) アンケート調査と結果

以上の資料を概観、省察し最後に「一まとめ」として「聖学院大学子育て支援センター」の活動の指針と展望を記述した。

(1) 2006年度子育て支援のための未就園児クラス「わかば」の開始時の趣旨及び地域への呼びかけと2007年度募集要項パンフレット

日本の社会問題として少子化が取り上げられてから20年が経過した今日、みどり幼稚園を取り巻く地域においても、子どもを育てることに不安感を抱く保護者が急増している。人間生活が急激に変化している現在、子どもが健やかに育ち、保護者が「育てる」ことに希望を見出すべき保育の理念の実現に向けてみどり幼稚園がこれまで実践してきた保育を、地域に更に浸透させたいと願い次のような趣旨のもと未就園児クラス「わかば」の開設を理事会に願い出た。

2006年1月11日 聖学院みどり幼稚園における未就園児保育の必要性について（資料1）

— 以下（資料1）から（資料8）までは、まとめて11頁以降に添付した —

（資料1）の提案は、みどり幼稚園園長により要約され学校長会に提出され、活動が開始されるに至った。尚、この趣旨は2006年5月付で、文部科学省初等中等教育局が配布した「三歳未満児に係る幼稚園入園事業の実施に係る留意点（以下抜粋）……2 幼稚園が2歳児を保育する上での留意事項⑤ 親子で、一緒に活動したりして、保護者が子育ての喜びや楽しみを味わう機会をつくりながら、親として成長できる場を提供していく」に一致したものである。2006年3月2日地域の保護者に、聖学院広報センターを通して「聖学院みどり幼稚園2歳児親子クラスのお誘い」として次の内容のパンフレットが配布された。 聖学院みどり幼稚園2歳児親子クラスのお誘い（資料2）

上記の結果、2006年5月10日より子ども42名保護者41名計83名と保育者3名で地域子育て支援を目的とした未就園児「わかば」クラス（以下「わかば」と記す）をスタートした。同年Ⅱ期Ⅲ期はⅠ期を上回る応募があった。（（4）利用参加状況を参照）初年度の聖学院の理念、子育て支援の趣旨が地域に受け入れられ、「人間を育てる」機能を自覚する」（保育者の地平 津守真著 ミネルヴァ書房）時が与えられた。幼稚園としてもこの状況を積極的に捉え、活動の主軸となっている親子の信頼関係を深める絵本の読み聞かせを表紙に取り入れた2007年度わかばクラス募集パンフレットを作成した。

2007年度わかばクラス募集パンフレット（資料3）

(2) 活動のねらいと内容の紹介

参加した保護者と子どもが「わかば」クラスでくつろいだ雰囲気の中で安心して充実した時を過ごすことが出来るよう各期ごとの活動のねらいと1日のスケジュールと子どもの成長に伴った配慮事項を記したものを毎回配布した。活動の中心としては、保護者・保育者が見守る中、子どもが園庭や保育室で主体的に安心して遊ぶ時間を大切にする、絵本の読み聞かせを毎回行うこと、家庭でも子どもに読み聞かせをして貰う為に絵本の貸し出しを実施すること、生活経験としてトイレを使用すること、手を洗い片づけを皆ですること、おやつを皆で一緒に「いただきます」をして保護者と分け合って食すること、帰る前に集まり讃美歌を歌いお祈りをして挨拶の後に解散することを取り入れた。

2006年度Ⅲ期2007年度Ⅰ期Ⅱ期Ⅲ期の活動のねらいと内容は以下の通りである。

各期の活動のねらいと内容・1日のスケジュール（資料4）

○ 各期のねらいと活動

2006年度Ⅰ期、Ⅱ期のねらいと活動については、「わかば」の主旨として資料1、2の内容に記したため配布を省略した。Ⅲ期より、「わかば」担当保育者の研修と参加者の状況把握に基づき作成した。このねらいと活動の予定が「わかば」の保育内容の指針となった。資料4に2007年度のⅠ・Ⅱ・Ⅲ期の事例を添付する。

○ 1日のスケジュールと配慮事項

1日のスケジュールは保育者が毎回の反省に基づき作成し「わかば」の活動開始の朝、祈りの後、打ち合わせの資料として用いた。その後、当日出席の保護者に配布した。都合で欠席した保護者にも翌週配布するようにした。「わかば」の活動の指針及び準備として役立ち、更に保育者と保護者の信頼関係を築く上で効果を得ることが出来た。（(7) アンケート調査と結果を参照）

(3) 環境構成と教材

子育て支援活動として「わかば」クラスを開設するにあたり大きな課題は場所の問題であった。最初の資料(1)未就園児保育の必要性について述べている資料の中に「聖学院みどり幼稚園は、子どもの成長をより豊かに支え、子どもの活動を充実させるために遊びの経験を大切にしています。更に、そのために保育者が子ども一人一人の経験を観察し、助言・援助のあり方を追求し、環境整備・教材研究に力を注いでいます。こうした保育の在り方は、子育ての渦中にある保護者に大きな示唆を与えます。」と記し、環境整備・教材には特別な配慮がある旨を訴えている。しかし、未就園児クラス「わかば」の応募人数が予想を大幅に超えたため、自然に恵まれた園庭は在園児と共有することが出来たが、保育室は、会議室のみでは狭く急遽、プレイルームと年長の保育室の一部を使用することとなった。未就園児を迎える環境整備に力を注ぎ、毎回保育者がその準備に苦勞をした。地域の子育て支援のための場所が与えられることを切望した。場所の問題はその後も解消でき

聖学院みどり幼稚園における子育て支援「わかば」の二年間の活動報告

ないまま活動を続け、保育者が2歳～3歳児に相応しい固定した保育環境を創り出すことは出来なかった。しかし、(資料8)2006・7年度Ⅲ期アンケート結果において示すとおり、保育環境としての園庭は100%の保護者が満足していた。教材教具に関しては、幼稚園の遊具・教材を使用し、2歳から3歳の幼児に相応しい教材・絵本は、献品により揃えられた。後に「さいたま市の子育て支援補助金」を申請し、みどり幼稚園が選定され、椅子・机・おもちゃなどの教材を購入することが出来た。教材・絵本に関しては、アンケート調査では92%が満足度を示していた。「わかば」専用の教材は資料5に記す。

わかば教材・教具・設備リスト (資料5)

(4) 利用場所・参加状況

○ 利用場所は以下の通りである。

幼稚園園庭 (通常保育)・幼稚園会議室 (通常保育)・プレイルーム (通常保育)・緑聖ホール (年に2回程度)・大学体育館 (年度終了時)・大学グラウンド (運動会, 年1回)・大学7号館裏庭 (どんぐり拾い, 年1回)

前項に記述したように通常保育の場に苦慮したが、大学・緑聖教会の協力の下、上記のような場が与えられ子どもも保護者も満足して利用している様子が伺えた。

○ 参加状況は、2006年度・2007年度ともに80%前後の出席率で、大変盛況で喜ばしいことであったが、環境整備が十分でなく混乱も見られた。特に乳児の対応に戸惑いを覚えた。幼い子どもなので、季節により出席率が変動すると予想を立て環境を整備したが、季節に関係なく出席率が良いのが特徴であった。保護者の意欲が感じられた。

子ども・保護者・乳児の各期ごとの平均出席状況 (資料6)

(5) 保育者とボランティア

○ 保育者

2006年度は幼稚園教諭免許有資格者大学職員2名非常勤保育者2名計4名が担当し、2007年度はこれに非常勤事務員1名が加わった。毎回、保育室の設定に時間を要し、保護者の対応、乳児の対応に十分に應えることが出来なかった。学生ボランティアに負うところが大きかった。人件費は非常勤のみ「わかば」会費により賄われた。

○ ボランティア

下記の要領により大学4年生より募集した。 「わかばクラス」学生ボランティア要項 (資料7)

2006年度は学生4名、緑聖教会より2名、2007年度は学生6名のボランティアが加わった。学生ボランティアの参加により保育室の整備、教材作成、子どもの活動状況の把握、乳児の対応など支援活動が豊かになり、保護者より高い評価を得、「わかば」クラスの活動に貢献した。又、ボランティア学生の反省会の折、次のような学習がなされたことが報告された。「子どもを育てている保護者

の把握」「保護者の悩みと対応」「保護者の子どもへの姿勢」「2歳～3歳の子どもの成長の様相」「乳児の対応」「環境整備のあり方」「教材作成」「保育者の協力」「保育技術」等……以上の経験から学生は、保育者として今後の就職に向けての示唆を得たとの発言があった。2006年度2007年度共にボランティア学生は、保育所・幼稚園に全員就職をしている。

(6) 保護者への働きかけ 相談・講演等

○ 相談

育児相談は特別の時間設定がなく保育中に行われた。従って保護者の悩みに時間をかけて対応出来なく件数も少なかったが、次の項目の相談があった。発達相談の対応はなかったので、機会設定や相談者の確保等今後の課題となった。

・トイレトレーニングがうまくいかない・食事が落ち着いて食べられない・偏食が多い・食事の量が少ない・子どもの寝る時間が遅い・母親が子どもと一緒に遊べない・子どもが友達と遊べない・母親の言うことを聞かない・母親の思い通りにならないと叩いてしまう・わかばクラスの集まりで落ち着きが無い・「わかば」クラスで歌やゲームを嫌がる。

○ 講演活動 2回

① 2006年7月10日、みどり幼稚園、「わかば」に通園している保護者以外に地域に在住する子どもを育てている保護者を対象に「聖学院みどり幼稚園地域子育て講演会」を開催した。ピアノ演奏(副園長・児童学科長)と「幼児期に育つこと・育てたいこと……子どもとの関わりを豊かにするために」(わかば担当・児童学科教員)の演題のもと開催された。幼稚園保護者、「わかば」、大学広報センターを通してパンフレットを配布し、子どもと保護者120名が集まり、ピアノ演奏に聴き入り又絵本の読み聞かせを取り入れた話に、豊かなひと時をもった。

② 2007年7月13日、前年度と同様の方法で地域に呼びかけ、日本の子育て支援を推進し、福祉に造詣の深い東京家政大学教授新澤誠治氏に「子どもが豊かに育つために」の演題のもと講演をいただいた。貴重な講演であったが、地域に講演のお知らせが行き届いてなく、又悪天候と時間の設定に問題があり40名弱の出席となった。しかし、保育者との懇談の時として有効な時が与えられた。

以上相談・講演活動共に十分な準備・検討・企画がなされなかった。今後の課題である。

(7) アンケート調査と結果

「わかば」の活動を充実し、子どもの健やかな育ちを支え、育てる親の豊かな気持ちと喜びの経験がなされるように願い、2006年度・2007年度Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期、同じ質問項目を設定し以下のようアンケート調査を実施した。地域の保護者の要望や実情を把握し鑑み、今後の「わかば」の方向と指針を得るために多くの示唆を得ることが出来た。現在行われている活動の環境整備や教材検討、スケジュールの組み方、対応のあり方などが、各期ごとに検討され目標や内容に反映させるこ

とが出来た。

アンケート調査結果（資料8）

アンケートの結果についての省察

回収率は、2006・7年度どの期も50%前後で半数の回答であったが、参加者の概ねの意見として掌握し今後の資料とすることが出来ると判断した。しかし2007年度Ⅱ期について配布ミスがあり回答率は30%となったが、他の資料と同様に参考資料として採用した。結果は単純集計に留め、質問項目は2006・7年度各期同じ項目とし、省察の資料とした。Ⅲ期の回答は、多くの参考意見があったが、内容・場・時・人・教材・その他に分類し代表的な意見を記述し、集計・省察の参考とした。

○ 2006・7年度Ⅰ期の結果について

「わかばクラスに出席して」の質問項目にたいしては、両年度共に99%の参加者が「大変良かった・良かった」と回答した。又、両年度共に複数回答で「楽しかった・勉強になった・友達が出来た・子どもの成長が解った」が高い数値で、わかばの活動を積極的に捉え、プラスとして評価していた。しかし、「慌しかった」（2006年度1名2007年度2名）「負担だった」（2006年度1名）との評価があり、保育者が参加者の状況把握に努めスケジュールの組み方に工夫が必要であることを確認した。資料については、両年度共に「必要なし」は0であったが、「役に立った」は両年度共に40%弱であり、保護者は保育中は目を通す余裕が無かったものと思われる。しかし、自由記述では「大変参考になった・役に立った」と記してあった。

○ 2006・7年度Ⅱ期の結果について

Ⅱ期の質問項目は「子どもの成長」と「保護者の成長」について解答を求めた。

「お子さんの成長を感じられましたか」については、2006年度は94%、2007年度は95%のプラスの回答があった。「親としての成長を感じられましたか」については2006年度は71%、2007年度は80%のプラスの回答があった。上記の結果により「わかば」クラス開設の目的が達成できたと判断した。具体的な内容をいくつか抽出すると以下の通りである。

「子どもの成長の具体例」（2006・7年度）

・挨拶をするようになった・「はい」の返事を楽しみにしている・少し待つようになった・お話が聞けるようになった・トイレに行くようになった・お友達と遊ぶようになった・おやつを分けて食べるようになった・絵本を借りるのを楽しみにしている・製作を楽しんだ・「ちいさいおてて」の讚美歌を家で歌う・「貸して・入れて・どうぞ」を言うようになった・順番が少し判った・在園児の活発な遊びを真似て遊具で遊んでいた・わかばを楽しみに待つようになった

「親の成長の具体例」（2006・7年度）

・いろいろな子どもや親と出会うことが出来た・保育者から育児について学んだ・2歳、3歳の成長の姿を学んだ・叱るときなど少し余裕を持つことが出来るようになった・自然の大切さを知った・子どもと一緒に活動する楽しさを知った・本と一緒に読む習慣がついた・他のお母さんの子どもへの接し方から多くを学んだ

上記のほか「親の成長を感じられなかった」が2006年度は2名、2007年度は3名あった。その理由は、・親の仲間に入れなかったから・いろいろな思いがあり少しずつ成長中、と記述していた。保育者の親に対する観察と配慮の必要性を知らされた。

○ 2006・7年度Ⅲ期の結果について

Ⅲ期では、開催日・時間・場所（園庭，部屋）・活動内容・スタッフ・おやつ・教材・絵本の貸し出しについて回答を求めた。（以下2006年度は'06，2007年度は'07と記す）

- ・ 開催日については、週1回を85%('06)，94%('07)が「良い」とした。不満では週2回を希望していた。
- ・ 開催時間については、96%('06)，95%('07)が「良い」とした。不満は30分時間を遅くして欲しいとの要望であった。
- ・ 場所については、園庭は100%('06)，96%('07)が満足していた。特に園児の自然の中での遊び方に感動していた。緑の木々に囲まれ、夏の木々の成長力に驚いたとのコメントがあった。遊具も参考になり幼稚園選びの参考になったとの意見もあった。部屋については96%('06)，70%('07)が「良い」とした。'07の不満は、雨の日は狭かった，移動が大変だった，満足する部屋でなかったとコメントがあった。
- ・ 活動内容については、89%('06)，93%('07)が「良い」とした。親子が一緒に活動をしたこと，創ること，歌うこと，聴くことなど活動の内容が豊かであったことが評価された。村山先生のピアノ伴奏による活動も感動したとの記述があった。
- ・ スタッフについては92%('06)，79%('07)が「良い」とした。専門のスタッフを揃えていた，優しくかった，励ましてもらった，丁寧であった，相談に応じてもらった，親切だった，良すぎて申し訳なかった，下の子どもも観てもらえた，挨拶が丁寧だった，安心感が与えられた，いつも笑顔だった，臨機応変に対応してもらえた，等が記されてあった。'07の不満はボランティア学生との意思疎通がうまくいかなかったとの記述があった。
- ・ おやつについては、89%('06)，96%('07)が「良い」とした。季節のものを取り入れていた，良質なものの配慮があった，分け合う経験が良かった，皆で食べる経験が良かった，等，概ね好評であったが，紙コップの使用は反対との意見があり次年度より各自コップを持参することとした。
- ・ 教材については、92%('06)，84%('07)が「良い」とした。予定表の歌の楽譜が参考になった，家では体験できない教材があった，年齢に応じていた，木のおもちゃなど良く選ばれていた，手作りが多く温かみを感じた，いろいろ発見できる教材だった，ピアノで表現したお話が良かった，等，好評であった。不満ではもう少し工夫したかったとの意見があった。
- ・ 絵本の貸し出しについては96%('06)，85%('07)が「良い」とした。子どもが絵本好きになった，何度も繰り返して読んだ，家に無い絵本と出会った，お気に入りの絵本が沢山出来た，借

聖学院みどり幼稚園における子育て支援「わかば」の二年間の活動報告

りて返す体験が良かった、絵本を購入する参考となった、興味を深めた、等、この活動は子どもと保護者の成長に貢献した。'07の不満は絵本冊数の不足であった。

- 自由記述については、2006・7年度を合せると、100件を超える記述があった。紙面の都合上、多くの悩みを抱え子育てをしている保護者を代表して次の記述を掲載する。

「わかばクラスでお世話になろうと思ったのは、公園に行ってもあまりにもお母さん同士が集団を作りそれにはいりづらく、公園からすっかり足が遠のいてしまったから。子どもも2歳になり、同じくらいの他のお友達を見かけると、ニコニコしながらお友達のほうを指差したりする……だけれども……そんな姿を見て、子どもを他のお友達と遊ばせたい、集団の中に連れて行きたいと思い始めた頃、「わかばクラス」のチラシを見た。きっとここも同じかなと思ったが、行ってみると私が想像していた雰囲気ではなかった。一日の流れが、自由に遊ぶことと皆で一緒に遊ぶことになっていたので、敬遠していた公園とはまるで違い、一年間、親子ともども本当に楽しむことが出来、沢山のお友達を作ることが出来た。これはすごい成長だった。「わかばクラス」の中で成長した。」

この感想は、「わかばクラス」に参加したこの保護者の心情を綴った大変貴重な記述として受け止めた。問題の多い現代の社会状況の中で、アンケート集計結果・及び自由記述から、多くの苦悩を抱えつつも子どもの健やかな成長を願う保護者の要望に応えるべき道筋と展望が与えられた。更に、(資料1)「未就園児保育の必要性について」で述べた主旨が実現されつつあることが確認され感謝の念を禁じえない。幼稚園で始めた「わかばクラス」の活動は、収益性の乏しいそして場所に苦悩した活動であったが、多くの保護者に子育ての示唆を与え、子育ての希望を与えた結果をアンケート調査から伺うことが出来た。又、聖学院みどり幼稚園の園児募集に貢献したと評価することが出来る。この活動が、次期の聖学院大学子育て支援センターに受け継がれ、地域の幼い子どもの健やかな育ちと、保護者の豊かな子育てに貢献し、大学・幼稚園共に信頼度・知名度を高め、聖学院が埼玉の地で神様の栄光を表す活動として進展することを期待したい。

— ま と め —

以上述べてきたように、2006年度から2007年度にかけてのみどり幼稚園における子育て支援「わかば」の2年間の活動は、多くの苦悩を抱えつつも幼い子どもの健やかな成長を願うこの地域の保護者に徐々に知られることとなり、それにしがたって毎学期の希望者は増加の一途をたどってきた。これは「わかば」の存在と、その取り組みの姿勢が地域に受け入れられてきたことの証しでもあったが、一方それは専用の場所が与えられないために起こる、相応しい固定した保育環境を創り出すことが出来ないという大きな問題を改善するための、早急な対応を迫られることにつながった。

この点を重視したみどり幼稚園では、2007年暮れに開かれた、園長、副園長、園長補佐、主任補佐の4名からなる4役会においてこの件についての協議がなされ、その結果特に園長から、みどり

幼稚園には、さらに発展するであろう「わかば」クラスのための専用の場所の準備と担当者をお願いするための経済的な基盤がないために、これ以上「わかば」を担うことは難しく、今後はみどり幼稚園としての協力体制は堅持するものの、「わかば」の運営は安定した別の組織に委ねたいとの提案がなされた。これを受けて児童学科長兼務である副園長及び「わかば」担当の園長補佐より急遽大学に、この2年間の実績を基盤に地域子育て支援を更に進展させるため、大学としての地域貢献の視点に立った地域子育て支援センターを設立することが提案され、議論・検討の結果、大学学長の裁量により、2008年度から児童学科を設立主体とし、①地域の乳幼児親子関係形成支援及び乳幼児の成長理解と基本的な生活習慣獲得支援、②学生学習向上、③大学・みどり幼稚園の知名度向上、を理念に据えた「聖学院大学子育て支援センター」を樹立し、活動を開始することが決定された。

この決定に基づき、2008年度早々にみどり幼稚園の敷地内にあるログハウスを「わかば」専用の場所に指定し、増改築を行った。増改築の内容は必要最低限でしかなかったが、これは2008年度予算決定時には全く想定外であった増改築に関わる全ての費用を、児童学科の予算を大幅に削って捻出したためである。これにより、決して十分なスペースが与えられた訳ではないが、それでもなんとか相応しい固定した保育環境を創り出すことが出来るようになった。また、2008年度秋からは「聖学院大学子育て支援センター」における「わかば」に並ぶもうひとつの活動として、児童学科教員による保育相談、発達相談も行われるようになった。

しかし、今後さらに「聖学院大学子育て支援センター」の歩みを「わかば」にせよ、保育相談、発達相談にせよ、地域社会、学生、大学、みどり幼稚園にとって意味のある充実したものにしていくには、場所の問題をはじめとする、整えなければならない数々の事柄に積極的に向き合う不断の努力と支えが不可欠であろう。そしてその進むべき方向は、常に「神を仰ぎ人に仕う」という建学の精神から示唆を与えられるものでなければならないと考える。

「聖学院大学子育て支援センター」の活動については、2008年度募集要項を資料9に掲載し、その他については機会を改めて報告させていただく。

資料1 聖学院みどり幼稚園における未就園児保育の必要性について (2歳から3歳にかけて)

子どもが育っている環境が(家庭・社会状況・自然状況など)健全でないことについてあらゆる教育機関等で指摘されていることは、自明のことです。それに伴い心を痛める事件の多発に多くの保育者(子どもを育てているすべての大人)が戸惑いを覚えています。更に、少子化の進行に伴った影響で、子どもが育つ過程で生じる問題、親の子育て力の低下等問題が山積し、国を挙げて子育て支援に躍起となっています。キリスト教保育の場でもこうした状況の中で、子どもが健やかに育っていくための努力を模索しつつ、保育の在り方について検討しています。豊かな人間性の育成という人間形成の営みとしての保育は、キリスト教保育の命題でも在ります。(大木理事長・院長の年頭の挨拶文に“人間を凝視する”に通じるものと考えます。) 私たちが行っている保育が「どこから出てどこへ行く」のか「救いの源は神であり、神の恵みの働きは永遠である」という信仰に基づいて、今、人間形成の営みとしての保育の在り方を聞きたいと思います。1995年日本で開催された世界幼児教育機構研究大会のテーマは、「いま、人間を育てる・・・子ども時代の充実に向けて・・・」でした。このことをキリスト教保育の場でも具体的な実践を通し、子どもの成長の支援を中心に、それぞれの園に相応しい形で実現しています。また、ユネスコでは、「いまや、幼稚園は家庭教育を補うものではなく、家庭教育では担いきれない重要な役割を果たすようになった。」という声明を出しています。幼稚園が、子どもの健やかな成長を支えるために、保護者に働きかける役割は大であります。

以上の状況を踏まえて、聖学院みどり幼稚園で実践できる保育の試みを提案してみたいと思います。

○ 幼い子どもたちの健やかな育ちを保護者と一緒に支えるために、未就園児保育の場を幼稚園内で提供し、未就園児保育(2歳から3歳までを対象)を実践することを提案します。その理由は以下の通りです。

- ・聖学院みどり幼稚園は、キリスト教の信仰に基づき保育が実践されています。神によって人が生かされ、一人一人のかけがえのない命の存在を何よりも大切にし、祈りによって他者を自覚する保育が実践されます。この経験は、2歳から3歳に向けて、「自分で」「いや」などの表現で表される自我の育ち、つまり自分は自分であって他の人とは違う認識の始まるの時期に、大変重要な経験になると思います。親子二人の関係では、経験できません。基本的な他者との信頼関係を親子で築ける配慮を幼稚園が担うことが必要です。
- ・聖学院みどり幼稚園は、子どもの成長をより豊かに支え、子どもの活動を充実させるために遊びの経験を大切にしています。更に、そのために保育者が子ども一人一人の経験を観察し、助言・援助のあり方を追及し、環境整備・教材研究に力を注いでいます。こうした保育の在り方は、子育ての渦中にある保護者に大きな示唆を与えます。2歳から3歳にかけての幼児は、行動範囲が拡大され探索活動が盛んになります。子どもが、どの様に遊び、探索し、経験を広げていくか保護者も学び、子どもも安心して成長することが必要です。しかし、この年齢の幼児の成長を、知能教育と称し、教育玩具を売りつける業者が絶えません。子どもにとってどのような教材や環境が必要であるか啓蒙する必要があります。
- ・聖学院みどり幼稚園は、恵まれた自然環境と広い敷地が与えられています。地域の公園では経験できない2歳児に必要な多くの経験が出来ます。2歳から3歳にかけて身体運動のコントロールが必要になります。全身・手・足などの協応動作が盛んになり多様な活動の始まりを経験します。思う存分エネルギーを発散させる場所を必要としています。幼児に必要な経験は何か、その問いに答える施設と空間の提供が必要とされます。
- ・聖学院みどり幼稚園は、幼児が基本的な生活習慣を身につけるために必要な経験が出来る配慮の下に保育がなされています。2歳から3歳にかけて基本的な生活習慣の自立がなされはじめます。情報・マニュアルによって子育てをしている保護者が、的確な保育実践を学ぶために幼稚園の保育を身近に見、体験することが必要です。生活のリズム……朝起きて、3度食事をし、遊び、休憩し、親と会話し、

夜8時には就寝する……を身につける意味を体験する必要があります。

- ・ 聖学院みどり幼稚園では、3歳から6歳までの男女の幼児が生活しています。年齢によりまた、個性によって違った成長の様相をしている子どもの生活を実際に保育の中で見る事が出来ます。以前は、保護者が地域の子どものを通して子どもの様相を自由に見ることが出来ました。近隣に子どもがいなくなった現状ではその経験が出来ません。子どもも大人との接触は多く経験できますが、自分とは異なった多くの子どもに接する機会がありません。子ども同士の中で学びあう経験・・・喧嘩などを通して自分の存在と他者の存在の意味など…を保護者も子どもも共に学ぶ経験が必要となります。

保護者と共に子どもの成長に深く関わり、子どもの健やかな成長を支える実践として聖学院みどり幼稚園の未就園児保育の必要性を記述してみました。少子化が進行している現状の中で、2歳児の生活経験が欠落していますので、現状の3年保育からでは、こうした経験を子どもも保護者もすることが困難です。

資料2 2006年度聖学院みどり幼稚園2歳児親子クラスへのお誘い

聖学院みどり幼稚園2歳児親子クラスへのお誘い

みどり幼稚園では3年前より未就園児を対象に、幼い子どものより良い成長を支えたいと願い「親子で遊ぶ会」を年間7回程度開催してきました。地域の多くの方が参加してくださり、大切な幼い子どもの成長を保護者の方々と共に支えることが出来ましたことに、深い意味を感じています。少子化が定着した今の時、子どもが育つ過程で人との関わりへの育ちが希薄になり、多くの課題が生じてきていますことは、子どもの成長に関わっている多くの人が周知していることです。そこでみどり幼稚園では、人との関わり、特に信頼関係が形成される2歳児の成長に関わる活動を更に充実したいと願い、このたび2歳児の親子クラスを開設することになりました。豊かな保育環境を備えているみどり幼稚園で、保護者（親）と共に保育者が関わる保育活動を以下の要領でいたします。

2歳児親子クラスへの参加をお待ちしています。

記

- | | |
|-------|---|
| 目的と方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 神様の守りとキリストの愛のもと、くつろいだ雰囲気の中でみんな（子どもと親）と共に遊ぶ保育を通し、人格形成の基盤となる人との関わりや信頼関係が豊かに育つ配慮をします。 ・ みんな（子どもと親）と一緒に身体を動かしたり、おやつを食べたり、絵本を読んだり、お話を聞いたり、歌を歌ったり、絵を描いたりなどこの年齢にふさわしい生活経験をし、お互いの成長を喜び合います。 ・ 親子で祈る経験を通して安心した生活の経験をします。 |
| 対 象 | 2歳から3歳の幼児とその親 |
| 場 所 | みどり幼稚園二階会議室または園庭 |
| 日 時 | 5月中旬より3月初旬までの毎週水曜日午前10時から11時30分
(幼稚園の夏休み、冬休み中は休み) |
| プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・ 親子で遊ぶ（絵を描いたり、粘土をしたり、おもちゃで遊んだり……） ・ まとまった活動をする（身体を動かす、おはなし、絵本を読むなど） ・ おやつ ・ 片付け ・ お祈り さようなら |
| 費 用 | 1回500円（教材、おやつ、保険料、保育料）各期ごとにまとめて徴収 |
| 募集人数 | 原則として17組程度とします。 |
| 募 集 | 5、6、7月を1期 9、10、11、12月を2期 1、2、3月を3期としますが、年間を通して登録していただきます。但しあきがありましたら各期ごとに募集します。（申込書は別紙） |

資料3 2007年度わかばクラス募集パンフレット

見学

聖学院みどり幼稚園は、ご希望により随時見学することができます。又、バザーやプレイデーの行事にも随参加していただけます。

幼稚園見学会 説明会	6月19日(火)
子育て講演会	7月13日(金)
幼稚園見学会 説明会	9月19日(水)
幼稚園見学会 説明会	10月15日(月)
入園願書配布	10月15日(月)
入園願書受付	11月1日(木)
※プレイデー	10月6日(土)
バザー	10月20日(土)

聖学院みどり幼稚園

わかばクラス

(未就園児親子保育クラス)

2007年度

Love God and Serve His People

聖学院みどり幼稚園

SEIG 聖学院みどり幼稚園

〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷320
 Tel:048-622-3864 Fax:048-625-1822
 ホームページURL: <http://www.seig.ac.jp/midori/>

Seigakuin Midori Yochien

わかばクラス(未就園児)親子の成長を折って

わかばクラスは、2歳から3歳の幼児とその親を対象に、みどり幼稚園が地域子育て支援事業として開設しているクラスです。2歳から3歳にかけて自我の芽生えの大切な時期、親と一緒に発達と過ごす中で、心と身体の健やかな成長を、保育者が親と一緒に支えたいと、次のような活動をしています。

- 2歳から3歳の幼児集団の中で、親子で遊びながら人との関わりを豊かに育てます。
 - ・園庭や室内で自然と出会うたり遊具を使ったりして自由に遊びます。
 - ・皆と一緒にゲームをしたり、絵本を読んでもらったり、手遊びや歌を歌ったり、パネルシアターなどを見ます。
 - ・遊びを豊かにする製作などを親子でします。
 - ・言葉を通して意志を伝えあいます。(ちゅっと待つてね、買して、入れて、ごめんなさい、ありがとう、だめ、いいよ、など…)
- 身の回りのいろいろな生活経験をします。
 - ・手を洗ったり、トイレを使う経験をします。
 - ・親子で片付けの経験をします。
 - ・みんなで「いただきます」を言い、おやつを一緒に食べます。
 - ・靴を脱いだり履いたり、上着を脱いだり着たり、傘をさしたりします。
 - ・挨拶をします。(おはようございます、さようなら)
- 歩く・走る・上る・跳ぶ・投げる・押す、などの運動を楽しみます。
 - ・運動会、お散歩、用あげなど…
 - ・遊具やおもちゃを使います。(ボール、すべり台、ブランコなど)

費用

- ◇第Ⅰ期(全10回) 5000円
- ◇第Ⅱ期(全14回) 7000円
- ◇第Ⅲ期(全10回) 5000円

日程

毎週水曜日 10:00~11:40

(第Ⅰ期) 5月10日 17日・24日・31日
6月 7日・14日・21日・28日
7月 5日 12日

(第Ⅱ期) 9月13日 20日・27日
10月 4日 11日・18日・25日
11月 8日 15日 22日 29日
12月 6日 13日 20日

(第Ⅲ期) 1月10日 17日・24日・31日
2月 7日 14日・21日・28日
3月 6日 13日

※上記日程より、変更になる可能性があります。

わかばクラス申込書

年 月 日 受付

時期	金額	申し込み	納入日
第Ⅰ期	5000円		
第Ⅱ期	7000円		
第Ⅲ期	5000円		

保護者氏名 <small>※お母様のお名前</small>	フリガナ
住所	〒 — —
電話番号	— —

※各期毎にお申し込みください。
 ※各期の定金は5000円です。

☆お子様についてご記入ください。

お名前	フリガナ
生年月日	年 月 日(子)
健康状態 (アレルギー等)	

資料4 2007年度各期のねらいと一日のスケジュール
ねらい

<p>2007年度第一期(5-6-7月)わかばクラスの活動について</p> <p>新しい年度を迎え、聖学院がより発展するべく、本年度は本年度(わかばクラス)のために、子どもの成長や発見を支える活動も今年度も準備してきました。わかばクラス年度の深き者一同、子どもの成長に適切な活動を保護者の方々と共に力を合わせて用意したいと思います。楽しい活動を毎回用意しています。</p> <p>以下の要領をご参照いただき、親御さまにもわかばクラスの活動にご参加ください。</p> <p>○ 今期のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内や園庭の遊びを通して友達の存在を知り、(保護者の方)いろいろな子ども達の存在を受け入れてください。在園児も思っている子ども達の様子を観察しましょう) ・心も身体も発達していく頃です。保護者の方はお返しの遊びをええようにしてください) ・絵本を読んでみたり、手遊びや歌をみたりして楽しむ。保護者の方にも子どもと一緒に楽しむ機会をもちます。絵本を読みながら、少しくつろぎながら入るようになりませう) ・トイレに行ったり、手を洗ったり、おやつを食べていたったり、片付けたり、生活リズムを整える。(保護者の方と一緒にします) <p>○ グループ分けについて</p> <p>今年度は、3歳児が15歳児より多いので、年齢で2クラスにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳クラス(きょうご) 2部会議 ・2歳クラス(ピンククラス) プレイルーム <p>○ 活動の流れ</p> <p>10時開校 シール機にシールを貼る 好きなところまで(プレイルーム、園庭) 光の道で散歩 10時50分頃 片付け・トイレ・手洗い 11時開校 クラスに分かれて活動 おやつ・手遊び・絵本・歌・劇など クラスできょうごなら</p> <p>11時35分 2歳クラス、プレイルームで絵本を借りる 11時40分 3歳クラス、プレイルームで絵本を借りる</p> <p>○ 持ち物 靴を入れる靴入れ、コップ(子どもと保護)、タオル、ティッシュなど</p> <p>○ スタッフ 佐山真子・グラーハム晃・山田静江・山崎由花・アンナ</p>	<p>2007年度第二期(9-10-11-12月)わかばクラスの活動について</p> <p>歌・遊びの活動、子どもたちは沢山の経験を積み重ねて新しい学期を迎えました。聖学院がより発展の実現(わかばクラス)の想い強いいろいろな活動を活かすこととします。新学期で仕事が始まるとともに、子どもの成長や発見を支える者一同の成長も育つは 2月 18日より始まります。わかばクラス年度は今年度第一期、第二期の子ども達の成長に合わせた活動を保護者の方々と共に力を合わせて用意したいと思います。いろいろな活動を準備しています。今回は活動の状況や内容などの準備によりクラス分けをしました。本年度は3歳、水曜日がまよくなりました。活動の予定も共に調整してください。</p> <p>以下の要領をご参照いただき、親御さまにもわかばクラスの活動にご参加ください。</p> <p>○ 3歳 黒いクラスへのねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びを通して友達を知り、保護者の方にもいろいろな子どもと出会うことができるようにしたい。在園児の遊びの様子を観察しよう) ・心も身体も発達していく頃です。保護者の方にも子どもと一緒に楽しむ機会をもちます。絵本を読みながら、少しくつろぎながら入るようになりませう) ・いろいろな表現活動をする。(絵本を読んでみたり、手遊びや歌、リズム表現、劇など楽しんで活動しよう) ・トイレに行ったり、手を洗ったり、おやつを食べていたったり、片付けたり、生活リズムを整える。(保護者の方と一緒にします) <p>○ 2歳 ピンククラスのねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びをしながら友達の存在を感じる。(保護者の方も一緒に遊びに加わりましょう) ・いろいろな遊びを通して友達を知り、保護者の方にもいろいろな子どもと出会うことができるようにしたい。 ・昔でやる活動を楽しむ。(絵本を読んでみたり、手遊びや歌、絵や製作を楽しむなどをしますが、無理に参加を強制しないようにします) ・トイレに行ったり、手を洗ったり、おやつを食べていたったり、片付けたり、生活リズムを整える。(保護者の方と一緒にします) <p>★ 運動の約・約・約・約 毎週お楽しみで当日お色紙に書いてください。 ★ 絵本 3歳児用クラシックス 2歳用クラシックス:プレイルーム ★ 持ち物 靴を入れる靴入れ、コップ(子どもと保護)、タオル、ティッシュなど</p> <p>★ スタッフ 佐山真子・グラーハム晃・山田静江・山崎由花・アンナ</p>	<p>2007年度第三期(2008年1月・2月)わかばクラスの活動について</p> <p>新しい年を迎えました。新しい気持ちで第三期のわかばクラスの活動を始めたいと思います。今年も活動の充実を図るために準備によりクラス分けをしました。お誕生日がまよくなりました。活動の予定も共に調整してください。</p> <p>水曜日 3歳きょうごクラスは2部制(夜行)で、幼稚園と保育園が保育室となります。お正月は、園庭や運動場と共に活用できます。お正月、幼稚園の先生から卒園がまよになりました。</p> <p>水曜日 2歳ピンククラスは、6月3日(祝日)で、2クラスに分け、幼稚園と保育園が保育室となります。お正月は、幼稚園がわかばクラス専用となりますが在園児も遊びに来ます。運動場と同時期に使用します。遊び、友達関係のあり方を学びましょう。不安や疑問がある場合は、わかばクラスのスタッフにお問い合わせください。</p> <p>わかばクラスのスタッフは、水曜日、山田・村上・伊藤、山田・グラーハムが保育士にはいります。水曜日は、山田・村上・伊藤、山田・グラーハム、山崎・由花です。日々の準備をご参照いただき、親御さまにもわかばクラスの活動にご参加ください。</p> <p>○ 3歳 きょうごのねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びを通して友達を知り、保護者の方にもいろいろな子どもと出会うことができるようにしたい。 ・昔でやる活動を楽しむ。(絵本を読んでみたり、手遊びや歌、リズム表現、劇など楽しんで活動しよう) ・トイレに行ったり、手を洗ったり、おやつを食べていたったり、片付けたり、生活リズムを整える。(保護者の方と一緒にします) <p>○ 2歳 ピンクのねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びをしながら友達の存在を感じる。(保護者の方も一緒に遊びに加わりましょう) ・いろいろな遊びを通して友達を知り、保護者の方にもいろいろな子どもと出会うことができるようにしたい。 ・昔でやる活動を楽しむ。(絵本を読んでみたり、手遊びや歌、絵や製作を楽しむなどをしますが、無理に参加を強制しないようにします) ・トイレに行ったり、手を洗ったり、おやつを食べていたったり、片付けたり、生活リズムを整える。(保護者の方と一緒にします) <p>★ 運動の約・約・約・約 毎週お楽しみで当日お色紙に書いてください。 ★ 絵本 3歳児用クラシックス 2歳用クラシックス:プレイルーム ★ 持ち物 靴を入れる靴入れ、コップ(子どもと保護)、タオル、ティッシュなど</p> <p>★ スタッフ 佐山真子・グラーハム晃・山田静江・村上和子・伊藤美穂子 山崎由花・アンナ</p> <p>○ 活動の流れ、内容・配慮事項等は別途お送りしますので2月5日発行でご覧下さい。</p>
--	--	---

一日のスケジュール

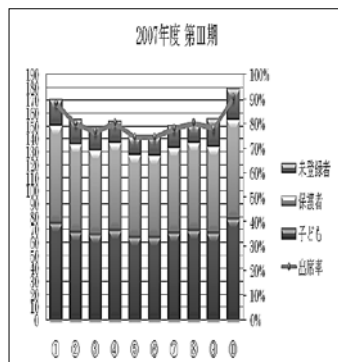
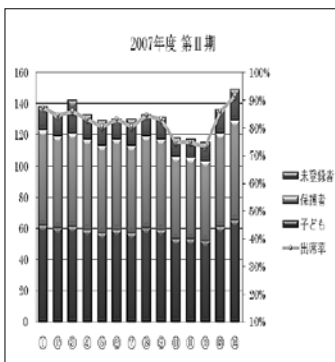
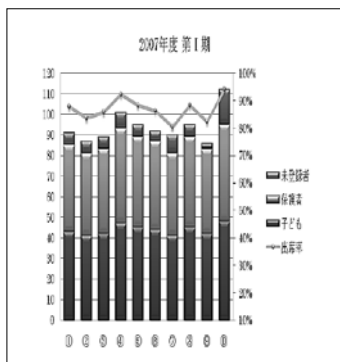
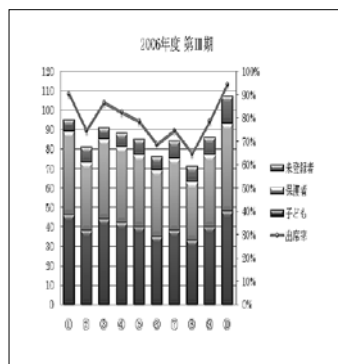
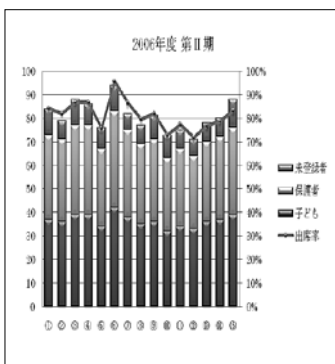
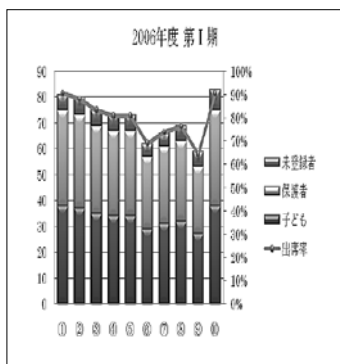
<p>わかばクラス今日の予定(ピンククラス) 2008年1月24日(木)</p> <p>昨日は埼玉にも雪が降りました。雪の降る日が幼馴染の子どものみではないかと思いませんか。雪の降る音、うんと寒い空気、かじかむや指など、外は不思議な世界です。子ども達は、見た事無いようなことも成長の過程でとても大切な経験です。子ども達の好奇心いっぱいに見える日、深く正での発見をお母さんとも一緒に楽しめると良いですね。今日はプレイルームで遊びます。一つの物語に対し、興味を持つ時期は個人差がありますが、皆と同じことができなくても、一人ひとりのペースに合わせて無理せず参加してください。</p> <p>おおよそのスケジュールは以下の通りです。</p> <p>10時開校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者と一緒に登園、受付。保護者も子どもと名札をつけます。絵本を返却し、お子さんと一緒にシール機にシールを貼ります。 ○ 貴重品は必ず持参してください。荷物にはプレイルームに置いてくださって結構です。 ○ 鞋子をゆつたり、じっくり遊びましょう。お友達と遊ぶ様子を見たり、お子さんが関心を持ったことを一緒に楽しんでいきます。 ○ 在園児の活動が活発になってきています。お父さん、お母さんの遊びを真似したがることも多いです。お子さんから目を離さないよう、お願いいたします。 <p>10時50分頃</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 皆で片付けましょう。使った道具を保護者と子どもと一緒に片付けます。 ○ トイレに行きましょう。紙オムツをしていてもできるだけトイレに行きます。お友達の様子を見て、自分でトイレをするきっかけになることもあります。 <p>11時開校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 手を洗い、うがいもします。 ○ 2部会議室とプレイルームの二つのクラスに分かれます。 ○ 手遊び「のねずみ」をし、絵本を読みます。 ○ おやつをいただきます。みんなで一緒に「いただきます」をしますので、それまで「ちょっと待っててね」と声をかけましょう。 ○ 各自ごろそうさまでして、お子さんと一緒に片付けます。 ○ ハップやわみを作ります。 ○ 荷物を持ってプレイルームに集合します。 ○ みんなで「しっしっ取りゲーム」などをします。 <p>11時20分頃</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ちいさいおでこ」を歌い、お祈りをし、きょうごをします。 <p>11時40分頃</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本を借りていない方は絵本の貸し出しをします。 <p>★ お子さんのことでご相談をしたい方は、口頭でも紙に書いてでも結構ですので、保育者にお声をかけてください。その際にお返事できない場合は後にご返事いたします。</p> <p>★ 送迎にはSEKパスをご利用いただきます。送迎事故防止にバス券を購入してください。</p> <p>★ お預みされる方はひとり幼馴染までご連絡ください。(ご連絡先:048-622-3964)</p>	<p>91. 風の子 見 直 唱 歌</p> <p>こどもは かぜのこ かいぜのなか こいぬも かぜのこ かいぜのなか りつと りつと</p> <p>かぜのこ かいぜのなか かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p> <p>こどもは かぜのこ かぜのこ</p>
--	---

聖学院みどり幼稚園における子育て支援「わかば」の二年間の活動報告

資料5 教材・教具・設備リスト

<ul style="list-style-type: none"> ・ ままごとセット ・ 人形（男の子，女の子） ・ ちゃぶ台 ・ 大型布積み木 ・ コルク積み木 ・ 木製積み木 ・ 型あわせブロック ・ 重ね箱 ・ 電車ごっこセット（大，小） ・ 木製の人形，動物 ・ 木製乗り物ごっこセット ・ 木製飛行機 ・ 小型プラスチック製飛行機 ・ 紐通し（3種類） ・ こま ・ パズル ・ 着せ替えパズル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輪投げ ・ 小さな木琴 ・ 木のわに ・ 木馬 ・ すべり台 ・ ボール ・ クレヨン（ハニーワックス） ・ 水性クレヨン ・ 折り紙 ・ 画用紙 ・ 絵本（250冊） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラビノーバ ・ 椅子 40脚 ・ 机 8個 ・ タペストリー ・ たらい ・ シート ・ すのこ ・ よしず ・ エアコン ・ 扇風機 ・ CD ラジカセ ・ 本棚 ・ やかん（大） ・ 冷蔵庫 ・ 便座 ・ おまる
---	--	--

資料6 平均出席



資料7 学生ボランティア要綱

聖学院大学人間福祉学部児童学科4年生のみどり幼稚園未就園児クラス

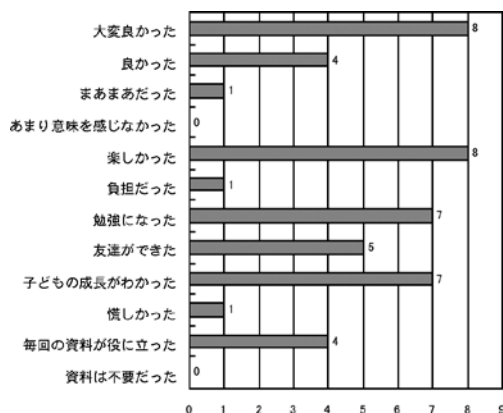
「わかば」ボランティア活動要項

- 目的 みどり幼稚園及び「わかば」の保育に参加し、児童学科で学んだ3年間の教科学習を確認し、保育実践の研鑽を深め、教員資格取得を希望する学生の資質向上を目指す。更に、保育者養成のために児童学科とみどり幼稚園の連携を深める。4年生の保育補助の姿を通し、2年生観察実習生はその後の実習活動の参考とする。
- 資格 ・4年次「幼児指導法」の教科を履修する学生（教科担当 長山）
 ・3年次までに必要教科の単位を取得している学生
 ・児童学科長の面接を受けた学生
- 内容 ・「わかば」クラスの保育補佐を行う
 園庭・遊戯室・保育室の安全確保及び生活補助
 子どもの遊び・生活指導に加わり援助する
 保護者と子どもの関わりを観察する
 ・保育方法・教材・環境整備について学び、保育者と実践する
 ・担当教諭と保育について意見を交換する
 ・保育現場の就職に向けて情報を得る
 ・保育について研鑽を深めたい学生はレポート、論文に纏めても良い（園の許可必要）
- 期間 幼稚園の学期に倣い、一学期毎に終了するか継続するか担当教員と話し合う
 他の園での実習期間中は参加できない。
- 時間 学生の授業の無い希望の時間帯 9時から13時までを原則とする。
 週1回か2回程度
 その他、教材研究・環境整備・保育研究は学生の希望により授業の空き時間に行う。
- 服装・持ち物
 みどり幼稚園の保育者に倣う エプロン・「わかば」の名札着用・上履き

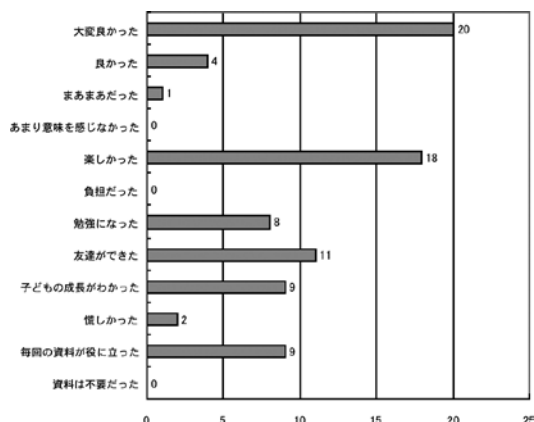
資料8 アンケート調査結果

I期 わかばクラスに出席して（複数回答可）

2006年度



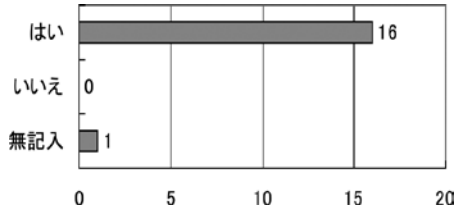
2007年度



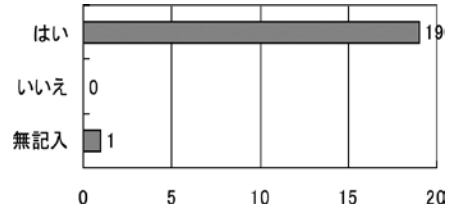
聖学院みどり幼稚園における子育て支援「わかば」の二年間の活動報告

Ⅱ期 お子さんの成長を感じられましたか

2006年度

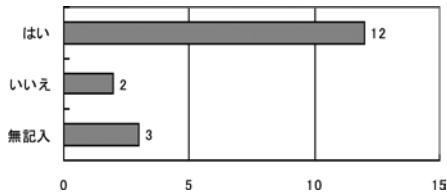


2007年度

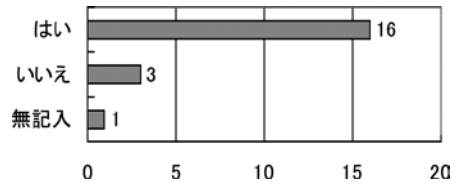


親としての成長を感じましたか

2006年度

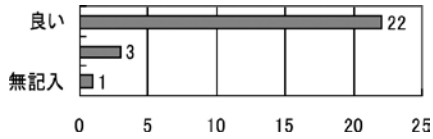


2007年度

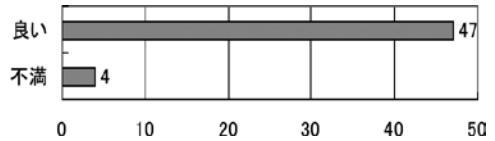


Ⅲ期 開催頻度（週一）

2006年度

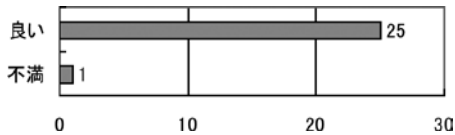


2007年度

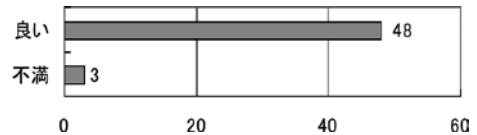


開催時間（時間は10時～11時40分で…）

2006年度

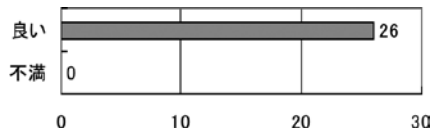


2007年度

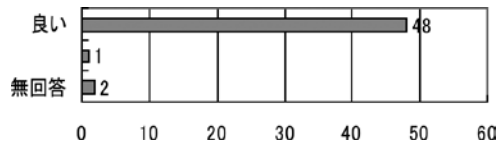


場所について（園庭）

2006年度

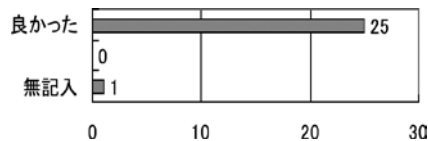


2007年度

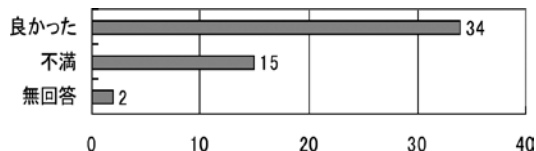


場所について (部屋は…)

2006年度



2007年度



紙面の都合上、Ⅲ期のアンケート質問項目・活動内容・スタッフ・おやつ・教材・絵本貸し出しについては資料として省略する。本文に概要を記述した。

資料9



スタッフ
 学長 阿久戸光晴
 センター長 村山順吉 児童学科長・みどり幼稚園副園長
 常任顧問・育児相談 長山篤子 児童学科客員教授・キリスト教保育遊聖理事
 顧問 横田英雄 みどり幼稚園園長
 保育 グラハム忠美 他2名
 学生ボランティア 5名
 協力 聖学院みどり幼稚園教諭
 相談・講演 児童学科教員

お問い合わせ：聖学院みどり幼稚園事務室
 〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷 820
 Tel: 048-622-3864 Fax: 048-625-1322
 もしくは 聖学院大学人間福祉学部児童学科・長山研究室
 Tel: 048-780-1839
 e-mail:wakaba@seigakuin-uiv.ac.jp



2008年度
 聖学院大学子育て支援センター
わかば

場所：聖学院みどり幼稚園内

2歳から3歳の幼児集団の中で、親子で遊びながら人との関わりを豊かに育てます。

- 園庭や室内で自然と出合ったりの遊具を使ったりして自由に遊びます。
- 皆と一緒にゲームをしたり、絵本を読んでもらったり、手遊びや歌を歌ったり、美術で遊んだり、パネルシアターなどを観ます。
- 遊びを豊かにする製作などを親子でします。
- 言葉を通して感情を伝えあいます。(ちよっと待てね、買って、入れて、ごめんなさい、ありがとう、だめ、いいよ、など)

身の回りのいろいろな生活経験をします。

- 手を洗ったり、トイレを使う経験をします。
- 網子で片付けの経験をします。
- みんなで「いただきます」を言い、おやつを一緒に食べます。
- 靴を脱いだり履いたり、上着を脱いだり着たり、傘をさしたりします。
- 挨拶をします。(おはようございます、さようなら)

ワカバの仲間：園庭ワカバの園を改修し、わかばクラス専用の保育室ができました！！



母と子ども、そして保育学生とのふれあい

費用
 ◇第一期(全10回) 5000円
 ◇第二期(全14回) 7000円
 ◇第三期(全10回) 5000円
 (水曜のみ4500円)

歩く・走る・上る・跳ぶ・投げる・押す・などの運動を楽しみ、動物との触れ合いを大切にします。

- 運動会、お祭り、風船など…
- お祭りやおもちを振ります。(ボール、すべり台・ブランコなど)
- お祭りなどの保育物、砂や土、水、スナなど、園庭の自然に触れ、遊び、体験します。

日程

毎週火・水・木、いづれか一日を希望し、参加します。
 調整をする場合もあります。随時見学可能です。
 火・水・木、各クラス20~25名までを定員といたします。
 時間 午前10:00~12:00
 (第一期) 10回
 開始 5月 13日(水) 14日(木) 15日(木) より毎週
 終了 7月 15日(水) 16日(木) 17日(木)
 (第二期) 14回
 開始 9月 9日(水) 10日(木) 11日(木) より毎週
 終了 12月 16日(水) 17日(木) 18日(木)
 [9月23日(火) 24日(水) 25日(木) は休み]
 (第三期) 10回 [2月11日(木) 休日のため水曜は9回]
 開始 1月 13日(水) 14日(木) 15日(木) より毎週
 終了 3月 17日(水) 18日(木) 19日(木)